

17 看 護

<目 次>

- 1 「指導と評価の年間計画及び評価規準の作成の手引き」
P 1 ~ 2

- 2 「指導と評価の年間計画」
基礎看護 P 3

- 3 「单元ごとの指導と評価の計画」
基礎看護 P 4 ~ 7

科目の目標

科目の評価の観点及びその趣旨

内容のまとめごと

目標

評価規準

单元ごと

目標

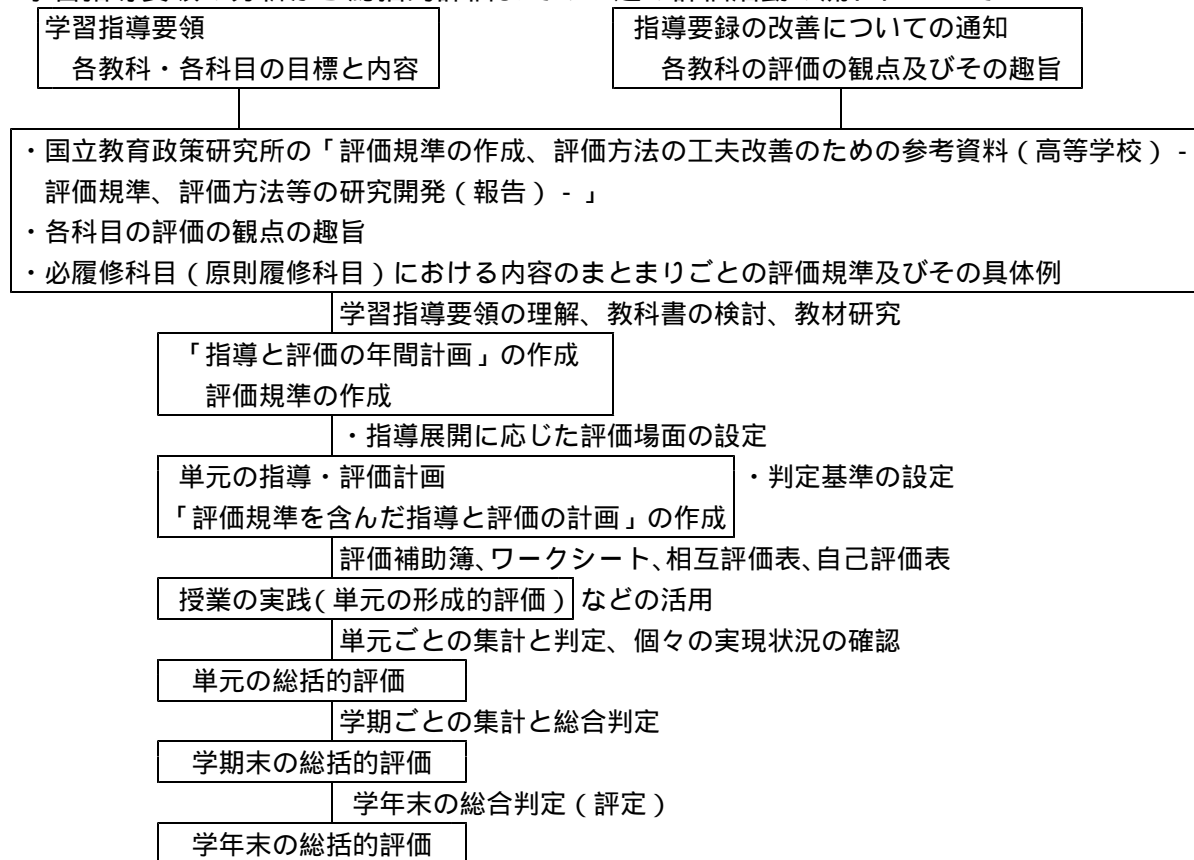
評価規準

各授業時間ごとの主な内容

授業指導案例

1 指導と評価の年間計画及び評価規準の作成の手引き

1 学習指導要領の分析から総括的評価までの一連の評価活動の流れについて



(1) 「指導と評価の年間計画」について

これは(2)の「評価規準を含んだ指導と評価の計画」の全単元について、その概要を記述したものである。

生徒の学習活動に対するより適正な評価、及び児童生徒の学習の改善に生かされる評価(指導と評価の一体化)の実現を目指して、次の特色をもった年間計画となっている。

これまで作られてきた指導計画は、多くの場合、授業内容(指導内容)を単に1年間の授業時間数に対して配分しただけに留まったが、この計画は、各授業ごとの学習活動のポイント、観点別の評価のポイントも含めて記述してある。

評価の方法を記述し、評価から評定への道筋が明確でありかつ説得力をもつように記述してある。

(2) 「評価規準を含んだ指導と評価の計画」について

学習指導要領に基づく「評価規準を含んだ指導と評価の計画」は、言い換えれば、評価規準を盛り込んだ「単元ごとの指導と評価の計画」である。次の特色をもつ。

科目全体の評価規準を示した。

「単元ごとの評価規準」及び単元の「各授業時間ごと主な内容」を示した。

各授業時間ごとの主な内容には、「主な学習内容」と「主な学習活動・具体的評価規準」及び「評価の方法・指導」を示した。

「主な学習活動・具体的評価規準」は、上記の「指導と評価の年間計画」の「主な学習活動(指導内容)と評価のポイント」に反映されていなければならない。

「主な学習活動・具体的評価規準」は、上記の「単元ごとの評価規準」の4観点を具体化したものでなければならない。

単元ごとの評価規準（例）

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
A	B	C	D

各授業時間ごとの主な内容

1項目名 (授業名)			
	主な学習内容	主な学習活動・評価の観点	評価の方法・指導
第1時間目	・学習内容の主な項目を記載	・上記Aの具体的な内容【関】 ・上記Bの具体的な内容【思】 評価の観点は次のように略記 【関心・意欲・態度】 = 【関】 【思考・判断】 = 【思】 【技能・表現】 = 【技】 【知識・理解】 = 【知】	・評価の具体的な方法及び指導のポイントを記載

(3) 「評価規準の作成の手引き」

評価規準については、次の内容構成で作成する。

以下に記述されている、「評価規準の作成、評価方法の工夫改善のための参考資料（高等学校） - 評価規準、評価方法等の研究開発（報告） - 」は国立教育政策研究所のホームページに掲載してある。

- ・ 科目の目標 ...学習指導要領に示す当該科目の目標
- ・ 科目の評価の観点及びその趣旨
 - ...学習指導要領及び指導要録改善通知に示された当該教科の評価の観点及びその趣旨をもとに作成
 - 具体的には、「評価規準の作成、評価方法の工夫改善のための参考資料（高等学校） - 評価規準、評価方法等の研究開発（報告） - 」に記載されたもの。
 - ・ 内容のまとめりごとの評価規準...内容のまとめりごとに4観点別に示した評価規準
 - 「評価規準の作成、評価方法の工夫改善のための参考資料（高等学校） - 評価規準、評価方法等の研究開発（報告） - 」に記載されたもの
 - 基礎看護においては、原則として学習指導要領の内容の（1）のアイなどの中項目を内容のまとめりとし、内容の（2）のイからキについては一つのまとめりとしている。
 - ・ 単元の目標 ...実際の使用教科書等に基づいた授業の進度に沿って単元ごとに示した目標
 - 学習指導要領の項目ごとのねらいを基本に記載
 - ・ 単元の評価規準...単元ごとに4観点別に示した評価規準。「内容のまとめりごとの評価規準」を単元の内容に即して具体化したもの。
 - 「評価規準の作成、評価方法の工夫改善のための参考資料（高等学校） - 評価規準、評価方法等の研究開発（報告） - 」に「内容のまとめりごと」の「評価規準の具体例」として記載されたものを基本に記載
 - ・ 各授業時間ごとの具体的評価規準と方法
 - ...各授業時間ごとに、単元ごとの評価規準に基づく具体的な評価規準とその方法を示したもの

基礎看護

2 指導と評価の年間計画 (2単位) (第1学年用)

<p>目標 【学習指導要領】 到達目標に向けての具体的な取り組み 【評価規準を念頭に置いた指導の上の留意点】</p>	<p>看護の意義と保健・医療・福祉における看護の役割を理解させ、日常生活の援助及び診療における看護に関する基礎的な知識と技術を習得させるとともに、看護を適切に行う能力と態度を育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 看護の基礎科目として、望ましい看護観や職業観及び生命に関する倫理観を育成し、自ら判断し行動できる力を育てるように工夫する。 単に技術のみの習得を図るのではなく、科学的な知識の裏付けによる援助の必要性の理解と、その方法を、講義と実習の一体的な指導を通して体験的に習得させ、知識と技術が統合化されるよう工夫する。 様々な場面において、最も明確な方法を自ら考え、創意工夫して安全・安楽を図りながら看護を実施できる能力を育てるように工夫する。 「診療と看護」においては、診療における看護の役割について理解させ、診療を受ける患者の援助に関する基礎的な知識と技術を習得させる。 「看護活動の展開」においては、患者との適切な人間関係を形成し、看護の援助を計画的に実施し評価する看護活動の一連の過程を扱い、事例などを用いて具体的に理解させる。
---	---

月	単元名	学習指導要領項目	時	主な学習活動(指導内容)と評価のポイント	評価方法			
4月	第1章 看護の意義と役割	ア 看護の対象の理解 イ 看護の意義 ウ 看護活動の分野 エ 看護職とその倫理	2 1 1 1	<ul style="list-style-type: none"> 看護の対象を総合的に把握する必要性を理解している。 看護の意義と変遷に関心を持ち、専門職としての看護の役割を理解している。 保健・医療・福祉における看護の役割について考察し、理解している。 看護の法的責任と任務、看護の職業倫理について関心を持っている。 人間尊重の精神に基づいた自己の人間観・看護観を表現することができる。 	アンケート実施 学習プリント 行動観察 ペーパーテスト			
5月	第2章 日常生活と看護	ア 日常生活の理解	2	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活行動と健康との関連について関心を持ち、自己の生活を振り返り課題を意欲的に見つけている。 病人の日常生活の意義と看護の役割を理解している。 日常生活行動と健康障害とのかかわりとその障害に応じた援助について理解している。 食事、排泄、体位交換、安眠、身体の清潔、衣生活など日常生活の援助に関する基礎的・基本的な技術を実習を通して身に付けている。 安全と安楽に配慮した日常生活の援助を行うことができる。 事例を通して、対象の状況に応じた日常生活の援助の必要性を判断し、日常生活の自立に向けた援助を行うことができる。 療養生活における学習、生産的な活動及びレクリエーションの援助について理解し、その内容と方法を表現することができる。 人間の健康と環境について科学的に思考を深め、人間にとって望ましい環境条件に関する知識を身に付けている。 安全と安楽に配慮し、病床の作り方及び病床環境を整えることができる。 対象の状態に応じて病床環境の調整を行うことができる。 授業評価を行う。 	行動観察 学習プリント 実技練習 観察 実技チェック表 実技テスト 実習日誌 ペーパーテスト 授業評価			
6月		イ 食事 ウ 排泄 エ 姿勢・体位と運動 オ 睡眠と休息	4 5 3 2					
7月		カ 身体 <small>の清潔</small> 前期中間考査 テスト返却 授業評価	1 4					
9月		キ 身体 <small>の清潔</small> 前期期末考査 テスト返却 衣生活	5 1					
10月		ク 学習、生産的な活動、レクリエーション	2					
11月		ケ 病床環境の調整 後期中間考査 テスト返却 授業評価	8 1					
12月		第3章 診療と看護	ア 体温、脈拍、呼吸、血圧の観察 イ 診療・検査と看護 ウ 与薬 エ 包帯法 オ 電法 カ 褥瘡の予防と手当て キ 無菌法と院内感染の予防 ク 救急処置			2 2 2 2 2 2 1 3	<ul style="list-style-type: none"> 体温調節の仕組み、心臓と血管の働き、呼吸運動と呼吸の生理についての基礎的・基本的な知識を身に付けている。 体温、脈拍、呼吸、血圧測定の基礎的・基本的な技術を身に付け、正確に測定することができる。 診察介助、身体各部の計測、主な検査の介助を行うための基礎的・基本的な知識を身に付けている。 診断の過程における検査の意義と概要及び患者の心理、看護者の役割について理解している。 与薬の一連の過程とそれぞれの過程における看護の役割について理解している。 包帯の目的と種類について理解し、包帯を適用するための知識と技術を身に付けている。 電法の種類と目的について理解している。 褥瘡形成のメカニズムを理解し、褥瘡予防と早期発見及び発生時の援助に関する知識と技術を身に付けている。 救急処置の意義及び救急処置における看護者の役割を理解している。 	行動観察 学習プリント 実技練習 観察 実技チェック表 実技テスト 実習日誌 ペーパーテスト
1月		第4章 看護活動の展開	ア 疾病・障害の状態と看護 イ 患者との人間関係 ウ 看護の過程 エ 看護活動の場における組織 後期末考査			1 2 1 1 1	<ul style="list-style-type: none"> 疾病・障害の状態をあらわすものとしての患者の訴えと兆候についての概要を理解している。 患者の訴えと兆候を適切に判断し、適切に対応することを理解している。 良い人間関係を保つことが看護を実践するための基盤となることを理解している。 適切な看護を行うためには、思考と実践からなる看護の一連の過程に沿って看護上の問題を解決することが重要であることを理解している。 保健・医療・福祉の看護活動の行われる場における人間関係の在り方や連携の重要性について理解している。 	事例演習 行動観察 学習プリント ペーパーテスト

合計時間数 70

基礎看護

3 単元ごとの指導と評価の計画

1 科目の目標

看護の意義と保健・医療・福祉における看護の役割を理解させ、日常生活の援助及び診療における看護に関する基礎的な知識と技術を習得させるとともに、看護を適切に行う能力と態度を育てる。

2 科目全体の評価の観点の趣旨

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
看護の意義と保健・医療・福祉における看護の役割について関心をもち、看護の改善・向上を目指して意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。	看護の意義と保健・医療・福祉における看護の役割について思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して看護活動を適切に判断し、創意工夫する能力を身に付けている。	日常生活の援助及び診療における看護に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、実際の仕事を合理的に計画し、適切に処理するとともに、その成果を的確に表現する。	基礎看護に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、看護の意義と保健・医療・福祉における看護の意義や役割を理解している。

基礎看護については、原則として学習指導要領の内容の(1)のアやイなどの中項目を内容のまとめりとし、内容の(2)のイからキについては一つのまとめりとしている。

3 「(3) 診察と看護 カ 褥瘡の予防と手当て」(内容のまとめりごと)の評価規準

内容のまとめりごとの目標(単元の目標)

褥瘡形成のメカニズムを褥瘡発生の要因や誘因、好発部位等と関連させて理解させ、褥瘡予防と早期発見及び発生時の援助に関する知識と技術を習得させる。また、褥瘡予防における看護者の役割の重要性を理解させる。

内容のまとめりごとの評価規準(単元の評価規準)

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
褥瘡形成のメカニズムについて関心をもち、褥瘡の予防と手当をするための実践的な態度を身に付けている。	褥瘡形成のメカニズムについて思考を深め、褥瘡の予防と手当をするための援助について適切に判断し創意工夫することができる。	褥瘡予防と早期発見及び発生時の援助についての基礎的・基本的な技術を身に付け、適切に援助を行うことができる。	褥瘡予防と早期発見及び発生時の援助についての基礎的・基本的な知識を身に付け、褥瘡形成のメカニズム及び褥瘡予防における看護者の役割の重要性を理解している。

基礎看護

授業時間ごとの主な内容

1 褥瘡の予防と手当て			
	主な学習内容	主な学習活動・具体的評価規準	評価の方法・指導
第1時間目	褥瘡の意味 褥瘡発生の要因 褥瘡の好発部位 褥瘡の経過と症状 褥瘡の予防	<ul style="list-style-type: none"> ・褥瘡形成のメカニズムについて関心をもっている。【関】 褥瘡という言葉の意味を理解し、どのような環境が褥瘡を引き起こすのかを考え、褥瘡形成のメカニズムを理解している。【知】 ・身体の中の部分に一番褥瘡が発生しやすいか、模型により褥瘡の経過と症状を知る。褥瘡を予防するにはどうしたらよいか考えている。【思】 	行動観察 学習プリント ペーパーテスト
第2時間目	褥瘡予防時の援助 褥瘡発生時の援助 看護者の役割	褥瘡予防、発生時の援助のロールプレイングを通して、褥瘡予防、発生時の基礎的・基本的な援助を適切に行うことができる。【技】 褥瘡予防と手当てをするために必要な援助について適切に判断し、工夫することができる。【思】 実習を通して、褥瘡予防における看護者の役割の重要性を理解している。【知】	行動観察 意見交換 実習日誌 ペーパーテスト

基礎看護

< 授業指導事例 >

教科(科目)	基礎看護	単元名	第3章 診療と看護
本時主題	力 褥瘡の予防と手当 (1時間目 / 2時)		
本時の目標	褥瘡という言葉の意味を理解し、どのような環境が褥瘡を引き起こすのかを考え、褥瘡形成のメカニズムを理解する。 褥瘡を予防するにはどうしたらよいか考える。		
指導の内容・ねらい	学 習 活 動	評価について	教師の指導
<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の目標の確認 (5分) ・ 褥瘡の発生要因 (10分) ・ 褥瘡の好発部位 (20分) ・ 褥瘡の経過と症状 (40分) ・ 褥瘡の予防 ・ まとめ 看護の意義 (50分) 	<p>褥瘡の写真から症状の概要を知り、褥瘡という言葉の意味を理解する。</p> <p>Question 1 褥瘡の症状と患者の生活状態との関連から、褥瘡の発生要因を考えよう？</p> <p>・ 褥瘡の発生要因を理解する。</p> <p>Question 2 身体の中のどの部分に褥瘡が好発しやすいか、プリントの人体図に書き込み、その理由を考えよう？</p> <p>・ 人体の図を用い生徒に考えさせ、図に正しい好発部位を書き入れ、なぜその部分に発生するのか理由を考え、発表する。</p> <p>模型によって、褥瘡の経過をその随伴症状を知る。</p> <p>Question 3 褥瘡を予防するにはどうしたらよいか考えよう？</p> <p>・ 褥瘡を予防するには、発生要因を抑えることが予防になることに気が付く。 ・ どのような看護が必要なのか。予防するための援助、早期発見するための援助、発生時の援助が適切にできることが必要であることを知る。</p> <p>次時、褥瘡の予防、早期発見、発生時の援助を適切に行う方法を実習し、看護の意義を考える。</p>	<p>評価規準【関】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 褥瘡形成のメカニズムについて関心をもっている。 <p>< 評価方法 > 行動観察</p> <p>評価規準【知】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 褥瘡という言葉の意味を理解し、どのような環境が褥瘡を引き起こすのかを考え、褥瘡形成のメカニズムを理解する。 <p>< 評価方法 > ペーパーテスト (次時小テスト)</p> <p>評価規準【思】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 褥瘡を予防するにはどうしたらよいか考えている。 <p>< 評価方法 > 学習プリント</p>	<p>なぜ褥瘡について学習するのかを知らせる。</p> <p>< Bを実現するための指導 > 具体的に理解できるよう、人体の図を用いて説明する。 4つの要因に分け、どんなものが発生要因となるのかを考えさせる。 図に正しい好発部位を書き込んでいるか机間指導し確認する。 模型を用いて具体的に褥瘡の経過とそれに伴う症状を説明する。 予防方法を褥瘡の発生要因と結びつけて考えるよう助言する。</p> <p>< Cへの手だて > 机間指導をしながら褥瘡形成のメカニズムを褥瘡発生要因や誘因、好発部位等と関連させ具体的なわかりやすい言葉で説明する。 課外で小テストを実施する。</p>

基礎看護

<参考資料1> 実習「」の自己評価表 1年___組___番 氏名
 A : 十分満足 B : おおむね満足 C : 努力したい

場面	評価項目	評価
校内実習	・遅刻・早退・欠席なく参加でき、忘れ物なく準備ができる。	
	・ <input type="text"/> の方法を調べたり、事前学習を進んでいる。	
	・ <input type="text"/> の目的が理解できる。	
	・実習のための身支度ができている。	
	・実施に必要な物品を実施手順を考え準備することができる。	
	・ケアに使用する <input type="text"/> を作ることができる。	
	・患者に挨拶・説明・声かけができる。	
	・安全に <input type="text"/> ができる。	
意見交換	・意見交換に積極的な態度で参加している。	
	・実習を振り返り、内容が表現できる。	
実習日誌	・実習日誌が指示した日時に提出できる。	
	・ <input type="text"/> の目的と <input type="text"/> の清潔保持の必要性がわかる。	
	・臥床患者の <input type="text"/> について、援助の方法とその注意点、観察項目が、科学的根拠に基づいて理解でき、表現できる。	
	・実習を振り返り、内容が表現でき、自己の課題がわかる。	

<参考資料2> 「」の教師用評価表 A : 十分満足 B : おおむね満足 C : 努力を要する

場面	生徒 評価項目	評価 () 班					備考
		A	B	C	満足	努力	
実習題材の目的 や本時の場面設定 を確認する	・遅刻・早退・欠席なく参加でき、忘れ物なく準備 ができる。(関)						
	・ <input type="text"/> の方法を調べたり、事前学習を進んで行 っている。(関)						
	・ <input type="text"/> の目的が理解できる。(知)						
班に分かれ必要 物品を準備する 場面	・実習のための身支度ができている。(関)						
	・実習に必要な物品を実習手順を考え準備するこ とができる。(思)						
	・ケアに使用する <input type="text"/> を作ることができる。(技)						
ケアの 実施場面	・患者に挨拶・説明・声かけができる。(技)						
	・安全に <input type="text"/> ができる。(技)						
	・終了後、患者を安楽な体位にし、ベッドなどを整 えることができる。(技)						
	・後始末ができる。(技)						
	・ロールプレイングのそれぞれの役割を真剣に取り 組んでいる。(関)						
班毎の意見交換 の場面	・意見交換に積極的な態度で参加している。(関)						
	・実習を振り返り、内容が表現できる。(技・思)						
事後、実習日誌	・実習日誌が指示した日時に提出できる。(関)						
	・ <input type="text"/> の目的と <input type="text"/> の清潔保持の必要性が わかる。(技・知)						
	・臥床患者の <input type="text"/> について、援助の方法とその 注意点、観察項目が、科学的根拠に基づいて理解 でき、表現できる。(思・技・知)						
	・実習を振り返り、内容が表現でき、自己の課題が わかる。(関・思・技)						